

令和 7 年度第 1 回射水市地域公共交通活性化協議会 会議録

- 1 開催日時 令和 7 年 5 月 2 8 日（水）午前 1 0 時 3 0 分～午前 1 1 時 3 0 分
- 2 開催場所 射水市役所本庁舎 会議室 3 0 2 ・ 3 0 3
- 3 出席者 本田会長、寺林副会長、角井委員、黒崎委員（代理：藤木氏）、埜村委員、山崎委員、金山委員（代理：山崎氏）、片岡委員、篠田委員、源代委員、中松委員、太田委員、上野委員、安田委員、山田委員、永原委員（代理：伊藤氏）、沖田委員（代理：高波氏）、油谷委員、青井委員、楠委員、福田委員（代理：栗原氏）、原田委員、菅原委員
- 事務局 明野市民生活部次長、春木生活安全課長、三川交通政策班長、薬師課長補佐、土橋主査、笹島主任
- 欠席者 新倉委員、渡辺委員、宮腰委員、白川委員

4 会議概要

(1) 開会

(2) 協議事項

- ① 射水市地域公共交通網形成計画の進捗について資料 1

【質疑応答】

(委員)

- ・ 高齢者運転免許証自主返納支援事業利用件数が目標値 500 件に対して 40%程度の達成率となっているのは目標値が高すぎたのではないかと感じるが、どうか。

(事務局)

- ・ 結果的には、目標値が高すぎたのではないかと考えている。過去の傾向を踏まえ、件数が増えるのではないかと考えて、目標値を設定したが、車がなければ不便が多いと考えた方が多かったものと捉えている。

(委員)

- ・ 車がなければ日常生活に影響がある人も多いことから、昨今はいかに安全に高齢者に運転してもらうかという方向性もでてきているの

で、免許返納数の目標値が高いことは本当によいのかという思いもある。

(会長)

- ・全国的なデータをみても、免許返納数は増えていくだろうという予測をしていたが、現状はそこまで増えていない傾向にある。これからは増えていくのではないかと考えている。

(委員)

- ・デマンドタクシーの便平均利用者数に「のるーと射水」は含んでいるか。

(事務局)

- ・含んでいない。

(委員)

- ・最近、乗合い（他の乗客と一緒に乗ること）になることが多いなど感じているので、利用者数も向上しているのではないか。

(事務局)

- ・令和6年度の「のるーと射水」を含めた利用者数は391千人であり、導入前の令和5年度の388千人と比べ、増加していることから、「のるーと射水」の利用者は増えている。

(会長)

- ・あいの風とやま鉄道や万葉線の利用者数が少しずつ増えているが、理由は何か。

(事務局)

- ・まだ、コロナからの回復途上ではないかと考えている。

(会長)

- ・本協議事項について、原案のとおり承認してよろしいか。

(全員賛成)

② 地域フィーダー系統確保維持費国庫補助金の活用について資料2

③ (国庫補助を活用するための) 地域公共交通計画(案)について
資料3

④ 射水市地域公共交通利便増進実施計画(案)について資料4

【質疑応答】

(会長)

- ・資料2のスケジュールにある8月の利便増進実施計画の認定と9月

の地域公共交通計画の認定が「(予定)」となっているが、この予定が前後した場合、全体のスケジュールは変わるのか。

(事務局)

- ・このスケジュールは、国から示されているスケジュールであるため、このとおりとなると考えている。

(委員)

- ・フィーダー系統の計画は市内東側、利便増進実施計画は市内西側と対象が違う理由は何か。

(事務局)

- ・「のるーと射水」は、効率性を考慮した場合、市内を区切って運行する必要があったため、北東・南東・北西・南西の4つにエリアを区切り、順に導入している。
- ・フィーダー系統の計画は、導入済みの北東・南東エリアが対象であり、利便増進計画は、これから導入予定である北西・南西エリアが対象となっているものである。

(委員)

- ・令和7年3月に策定した射水市地域公共交通計画には、フィーダー系統は射水市全域となっているが、今ほどの説明との違いは何か。

(事務局)

- ・北西・南西エリアに導入後には、フィーダー系統の計画を実施する予定のため、全域としている。

(委員)

- ・北西エリアの「のるーと射水」と、「べいぐるん」のすみ分けは、どうするのか。

(事務局)

- ・アプリや料金体系等を統合したいと考えている。

(委員)

- ・例えば、北西エリアの塚原から北東エリアの下村へ行きたい場合は、どこで乗り換えるのか。

(事務局)

- ・北西エリアと北東エリアの両方が利用できる乗降場所の設置を予定している。他エリア間についても同様である。

(委員)

- ・乗継場所に、時間を潰せる場所や雨宿りができるような場所がない

ことがあるため、待合を充実させてほしい。

(事務局)

- ・まずは、雨宿りについて検討したい。

(委員)

- ・フィーダー補助の申請は、事業者単位ではなく、市からの申請になるか。

(事務局)

- ・地域公共交通活性化協議会名義での申請であり、事業者単位ではない。

(委員)

- ・北西エリアと南西エリアの乗継拠点は、市民病院になるのか。

(事務局)

- ・市民病院としたいと考えている。
- ・新湊市街と小杉駅を結ぶ市民病院経由のコミュニティバスは、「のるーと射水」の運行時間中も、引き続き運行するため、市民病院が便利ではないかと考えている。

(委員)

- ・「のるーと射水」への移行後の、新湊市街と交通結節点を結ぶコミュニティバス路線はどうなるのか。

(事務局)

- ・新湊市街と小杉駅、新湊市街と越中大門駅を結ぶ路線は、「のるーと射水」導入後も運行することとしている。
- ・小杉駅方面は市民病院を経由するが、越中大門駅方面は、市民病院を経由したほうがよいか、しないほうがよいか、所要時間等を考慮しながら検討しているところである。

(委員)

- ・越中大門駅方面の路線は、所要時間がクリアできれば、利便性の点から、市民病院を経由したほうがよいのではないかと思う。

(委員)

- ・コミュニティバスが維持され、「のるーと射水」が新たに運行されるのであれば、観光客にとってはこれまで以上に便利になると考えてよいか。

(事務局)

- ・一般的に観光客の方はインターネットの乗換案内サービスで路線を検索することが多いのではないかと思う。コミュニティバスは変わ

らないので、今までどおりの検索で移動できる。

- ・「のるーと射水」などのデマンド交通は、乗換案内サービスで検索できないが、デマンド交通の利用方法をご存じの方は、選択肢が増えることになる。

(会長)

- ・観光客のような初めて「のるーと射水」を使うお客様にとっては、検索にヒットしないとなかなか使いづらいところもあると思うので、利用方法のPRが必要ではないかと思う。

(副会長)

- ・「のるーと射水」では、上りと下りの対面になっている乗降場所において、AIの都合で予約時の向きとは逆向きに到着することは、よくあるのか。

(事務局)

- ・例えば、利用者が予約時に下り側のバス停を選択したが、AIの判断で予約確定時に上り側のバス停となることはある。予約確定後にバス停の向きが変わることはないと聞いている。

(委員)

- ・「のるーと射水」を毎日何度も利用している経験でお話すると、「のるーと射水」は基本的に予約確定時に決定した向きに来るが、交通状況によっては、予約確定時に決定した向きでは、大きく遅延するかもしれないと運転手が判断して、安全を十分に確認した上、反対の向きとされることがあった。

(会長)

- ・普段から「のるーと射水」を利用していないとわからない点が多いと感じたので、北西・南西エリアの実証運行に当たっては、情報発信にも気をかけていただければと思う。

(委員)

- ・フィーダー補助の申請で、令和7年度と令和8年度で計画運行日数が異なるが、これでよいのか。

(事務局)

- ・初年度である令和7年度は、北東エリアと南東エリアの本格運行が開始した後の期間についての申請となるため約半年分となっている。令和8年度は丸々1年分である。

(委員)

- ・「My route」と「のるーと射水」の連携は何か考えているのか。

(事務局)

- ・今後、検討したい。

(会長)

- ・本協議事項について、原案のとおり承認してよろしいか。

(全員賛成)

(3) 報告事項

地域公共交通確保維持改善事業費補助金（国庫補助金）に係る
国の事業評価について 資料 5

(質疑応答なし)

(会長)

- ・今回ご承認いただいた２つの計画については、この後、北陸信越運輸局に認定申請を行う。軽微な修正が生じた場合には、会長である私に一任願う。

(全員了承)

(4) 閉会